

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)2月18日

I 学校教育目標

『気づき 考え 実行する生徒』
～思いやりの心をもって～

II 目指す生徒像

＜芸術の森から未来を拓く子ども＞

- 1 自らすすんで学び方を身に付け、自信をもって発信できる生徒(知)
- 2 多様な価値を認め、相手を思いやるやさしさをもつ生徒(徳)
- 3 自分を大切に、たくましい心と体をつくる生徒(体)

III 学校経営の基本方針

- 1 未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する教育課程の編成と実施 <知>
- 2 人間性豊かな心を持ち、社会で生きる力を身に付けた生徒の育成 <徳>
- 3 健やかな心身の育成に向けた健康・安全教育の推進 <体>
- 4 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 <学びの支援>
- 5 同僚性に基づいた協働体制の構築と教職員の資質・能力の向上 <協働・研修>
- 6 開かれた、信頼される学校の創造 <家庭・地域>

IV 自己評価結果及び学校関係者評価

A・・・十分である B・・・おおむね十分である C・・・不十分である

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		今年度	分析・改善の方策など 学校評価アンケート(7月・12月実施)より肯定回答や変化の顕著なものを中心に数字を抜粋。(参考までに昨年度との比較を(pt)で示している)	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1 学校運営	学校教育目標、重点に基づき、生徒が生き生きと学校生活を過ごせる学校づくりに取り組んでいる。	A	○生徒アンケート「自分なりに目標をもって学校生活を送っている」87.9%(+5.1pt)昨年度よりさらに向上した。学級・学年での目標設定や振り返りの取組が、生徒の主体性向上につながっている。 ○生徒アンケート「健康情報を生活に役立てている」も向上。83.0%(+9.2pt)保健指導、心の健康教育、情報提供の工夫が、生徒の意識変容として表れている。	A	A
	教育活動全般を通して、自己肯定感や自己有用感を高める指導を行っている。	A	○生徒アンケート「仲間や自分を大切にしている意識」99.1%(+0.4pt)高水準を維持している。学校生活全般に対する満足度や安心感が高く、人間関係と学習環境が良好に保たれている。 □保護者アンケート「楽しく学校に通っている」はやや低下85.2%(-2.7pt)学校運営への評価とは別に、生徒一人一人の学校生活の実感には差がある可能性。	A	A
	「心のこもった挨拶を大切に生活する」指導に努め、生徒、保護者、地域に浸透している。	B	◇地域アンケート「気持ちのよいあいさつ」「社会のルールやマナー」「落ち着いた学校生活」の3項目はいずれも肯定的回答88.2%で低い水準ではないが、R6よりは下降。R6から①「そう思う」の割合が減少し、②「まあそう思う」への移行が見られる項目もあり、評価は高いが、やや慎重な見方も増えていると考えられる。挨拶については、改めてその意義を考えさせ自発的に行えるよう取組を考えたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	校内での挨拶はできていると思いますが校外となると少々消極的に感じる。/挨拶をする意義について考えさせたいと思うのは小学校も同じ。どんな挨拶がよいのかよりも何のために挨拶をするのか考える機会をもつのは良いと思う。/挨拶が難しくなっている。昔と違い大人も子ども達に挨拶しなくなった。でも学校の中では明るく、子ども達から挨拶してくれる様子あり。地域の方から見えないので低い可能性も。/個人的は、今年度挨拶については気持ちのよい反応を感じている。子ども達に会うのが楽しみである。/知らない大人に関わる危機感を発信されたり、一時期コロナ禍の隔離やしやべらない教えなどを受けた世代、挨拶をちゃんと学んでいないかもしれない。/部活動に所属している。していないでの差も感じられる。/挨拶の意義を再考させる、自発的に行う動機を考えさせる、という(学校の)姿勢を評価する。				

学習指導	4	生徒一人一人の個性や能力が活かされ、学びの喜びを感じさせる指導が展開されている。	A	○生徒アンケート「授業・教員対応への評価」にに係わる項目97%以上、また「総合的な学習の時間の有用感」93.7%(+3.7pt) 教員の指導への信頼の厚さ、また、探究的な学びや将来とのつながりを意識した指導の成果が見てとれる。 □保護者アンケートからも評価が向上・高水準を維持している項目として、「教員の授業への熱意」97.1%(+1.2%)保護者からの信頼が非常に高く、本校の強みといえる。「子どもへの適切な評価」96.0%(+4.9%)観点別評価や説明の工夫が一定程度理解されていると考えられる。 ○生徒アンケート「数学科TTの有用感(1・2年)」夏:88.5% → 冬:78.4%中間結果から低下しており、指導形態や生徒理解の面で再検討が必要。 □保護者アンケート「TT指導の有効性」86.5%(-4.7pt) 昨年度からは低下したものの、肯定的に捉えられていると言ってよい。保護者にとって成果が見えにくさもあるが、引き続きTTが機能するよう努めていきたい。(※対象は1, 2年生)	A	A	
	5	各教科で評価や評定を正しく行い、通知表などを通して生徒や保護者にわかりやすく伝えている。	A		A	A	
	6	複数教師(TT)による指導が計画的に行われ、効果を上げている。	A		A	A	
	7	道徳的価値を自分とのかかわりで捉え、行動へとつなげていけるような心に響く道徳教育の実施に努めている。	A		A	A	
	8	総合的な学習の時間のねらいを達成するため、学年に応じた指導内容の工夫・充実を図っている。	A		A	A	
学校関係者評価委員による意見		授業への熱意に対する評価がとて高いのは教職員の皆様の日々の努力と子ども達への細やかな関わりの成果かと思う。/生徒達が目標をもって学校生活に取り組んでいることはとても良い。保護者からのTTが低いのは余り知られていないのかも。/教員間の連携について一考が必要かと思う。TTパートナーの意見交換が子どもを育てる指導に繋がると思う。					
生徒指導	9	基本的な生活習慣の体得、集団生活の役割や規律の遵守に努めた生徒指導が展開されている。	A	○生徒アンケートの「先生は生徒の間違った行動に対して適切に指導している」96.4%「いじめや暴力の抑止」96.4%「困ったり悩んだりしたときは、先生方と相談できる機会がある」93.3%いずれもR6より微増。 □保護者アンケート「先生は生徒の間違った行動に適切に指導」89.4(-2.3pt)微減ではあるが、相談体制、いじめ防止等はいずれもR6より微増の9割超。「学習の質」とともに「教職員の姿勢」は本校の強みだと感じる。 ※年3回の全員を対象とした教育相談に丁寧に取り組んでいる。生徒教師間の信頼関係作り、教師間の連携が出来ている。月に一度の防止対策委員会は2年目となり、情報の共有、事例ごとの対応の確認や相談を続けている。	A	A	
	10	命の大切さを実感させ、「いじめ」が起きないような学校作りに取り組んでいる。	A		A	A	
	11	教育相談の充実や校内学びの支援委員会の活用により、適切かつ効果的な指導を推進している。	A		A	A	
	12	進路指導に関する的確な情報や相談がなされている。	A		A	A	
学校関係者評価委員による意見		先生形の評価が高いまま維持していることはとても良い。先生達の生徒達に対する対応が信頼へと繋がっていると思う。今後も継続して欲しい。/一人一人の個性の育成と大人の世界への資質や能力を育てることが一番大切な時期だと思う。					

13	特別活動	生徒が学校行事に積極的に参加できるような企画・運営を行っている。	A	○生徒アンケート「学校行事・生徒会活動に楽しく参加」98.7%(+1.4pt)	A	A
14	特別活動	生徒会活動の組織的機能を活用し「生徒主役」の具体化を図っている。	A	□保護者アンケート「学校行事の意義・適切さ」95.9%(±0pt)行事の精選や内容の充実が評価につながっている。学校生活全般に対する満足度や安心感が高く、人間関係と学習環境が良好に保たれていることにも繋がっているのではないかと。	A	A
学校関係者評価委員による意見		先生、保護者も高い評価なのでそのまま。生徒達が行事などをとても楽しみにしており思い出に残っているということですね。/色々な社会の中で良い環境を造れるかが大切。PDCAを理解させることも大切だと思う。				
15	学信校頼のさ創れ造る	学校行事やPTA活動を通して、学校・保護者・地域との一体化に努めている。	B	○生徒アンケート「学校行事・生徒会活動」98.7%(+1.4pt)「学校だより等を保護者に見せている」76.2%(+2.0pt)微増はしているが、他項目と比べると低水準。学級での声かけ、配付時の指導、ICT活用等の工夫が今後の課題。 □保護者アンケート「情報発信」に関する評価は高水準94.2%(+0.1pt)(夏は99.1%)すぐー等の活用が定着した一方、情報量や伝え方の質が今後の課題。今後の視点として、生徒の「楽しさ」「分かりやすさ」「支援の実感」を保護者にも伝わる形で可視化することが求められる。	A	A
16		学校便りをはじめとした各種便り、ホームページなどを活用して、積極的に情報発信を行っている。	A	◇地域アンケート「PTA活動が活発である」は41.2%(-30.2pt)と前年度から大きく低下し、⑤「判断できない」が29.4%と増加。実際の活動量だけでなく、活動の周知不足や、地域から見えにくい運営形態が評価に影響していると考えられる。「学校だよりやホームページを通じて学校の様子が伝わってくる」は88.2%(-11.8pt)やはり「判断できない」の回答が一定数見られる。情報に触れる機会や内容の分かりやすさについて工夫の余地がある。来年度から、すぐー「青少年健全育成推進会」チャネルを活用し、学校だよりの配信、地域アンケートの実施(登録者を対象)を予定している。	A	A
学校関係者評価委員による意見		PTA活動やPTAの在り方についても今後パートナー校として一緒に考えていかなければならない課題として捉えている。/地域の関わりも難しくなっている。常盤中ならではのゲストティーチャーや今年度行ったモルック大会などそれで良いのではないかと。PTAの在り方、先生達の働き方など変化しているのでここは難しい判断になってしまったのかも。/信頼されるのは一方向での問題ではなく、相互間の積み重ねと成果の両面で得られると思う。情報発信をこまめに行うことが大切。				

V 自己評価書に対する総合評価

本校の教育活動は生徒、保護者ともに総じて肯定的に受け止められている。特に、教員の授業姿勢、生徒指導、安心・安全に関わる項目では、肯定的回答が95%前後と非常に高い水準を維持している。また、今年度は、昨年度の良い点を意識しながら、年間を通して、取組の修正や指導の積み重ねをしてきたことも成果として表れていると考えられ、学校としての安定性と信頼性が高い一年であった。特に学習指導面、生徒対応への信頼を今後も本校の強みにしていきたい。

一方で、数値が相対的に低い項目は、生徒の主観的体験や取組の「見えにくさ」に関係している面もあり、今後は実践の質だけでなく、説明・発信の工夫が重要となる。保護者や地域が「知っている」「関わっている」「評価できる」学校づくりを目指したい。